

私達は真剣なんだ！

七彩

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

ドラゴンボールの孫悟飯が川神学園へ転校し

そこで力を押さえつつ学園生活を謳歌していく

そんなクロスオーバー作品です。

世界観として基本的にまじこいの世界にドラゴンボールの住民もいる感じですよ。

# 目次

進路はどうする？ 悟飯選択の時！

1



# 進路はどうする？・悟飯選択の時！

「悟飯ちゃんもそろそろ家だけの勉強じゃ限界だべ？」

「そうですね、やっぱり自分だけじゃ少し限界を感じる時があります」

「そだべなあ、悟飯ちゃんは良い学校に入って、えれえ学者様になってもらうからなあ」

そんな話をしている親子が二人で頭を捻っていたその時

「そうだべ！ブルマさんに相談してみるべ！」

母親、チチがひらめく。

「それはいいですね！」

息子、孫悟飯も賛同したときだった

「おーい！悟飯ー！ー！」

悟飯の父、孫悟空の大親友クリリンが家を訪ねに来たのである。

「あ！クリリンさんお久しぶりです、今日はどうしたんですか？」

「たまたま近くを通ったからな、ちよつと久々に顔を見たくなつてな、ハハハ」

「んだー、クリリンさんじゃないか、久しぶりだべえ」

「あ、そうそうクリリンさん、僕学校に行こうと思ってるんですよ！」

「へえ、学校か、俺は子供のころから武天老師様の所で悟空と修行漬けだったからなちよつと憧れるよ」

「アハハ!あ、でも僕まだ何処の学校か決めてなくて……」

「クリリンさんどこか良いところ知らないですか?」

「おいしい、学校行ってなかった俺に聞くようなことかよ……」

「さてよ?学校……学校……んんん」

「クリリンさん?」

「そーだ!武天老師様の知り合いが学園長をやってるんですよ!」

「ええ!武天老師様の知り合いにそんな人がいるだべ?」

「詳しくは覚えてないんですが川神?学園の学園長と武の高みを目指して戦ったのかなんだとか」

「エロの高みじゃないか心配だべ……」

「ハハハ……相手に失礼ですよ、チチさん」

武天老師様の知り合いかあ、どんな人だろう

そんなことを思いつつ詳しい話を聞かためクリリンと一緒にカメハウスへ行く悟飯

達であつた。

「川神学園なら丁度いいかも知れんぞ？ 悟飯」

「そうなんですか？」

「川神学園のある川神市は武が盛んで他の学校では悟飯の身体能力は異常じゃが川神ならもしかしたら誤魔化せるかもしれんし、それにSクラスという学問の優秀な特進クラスみたいなものもあつたはずじゃ」

「なるほどだべ！ たまには役に立つこともあるもんだべ！」

「たまにはは余計じゃ!!」

「あはははははは!!」

「オッホン！ とりあえず川神学園にはワシから連絡を入れておくから今度見学に行つてみると良いわい」

「武天老師様、ありがとうございます！」

数日後

「うわあ！ さすが駅前！ 人がいっぱいだなあ、川神学園はつと……」

「フハハハハハハ！ 九鬼英雄！ 光臨である！」

「たまには王直々に町並みを視察するのも良いものだな！」

「流石です☆英雄様！」

「あのく、川神学園ってどこか分かりますか？」

「んだ、テメエ！ 誰に話をかけていやがッ 「下がれあずみ！ ただの困った人であろう」

「出すぎたまね！ お許しください英雄様☆」

「今日は気分が良い！ 我が直々に案内をしよう！」

行くぞあずみ！そしてその民も！

「ありがとうございます！」

「走りますのでついてきて下さいね☆」

「フハハハハハハハハハハ！！！！」

（この人達に聞かないほうが良かったかなあ……）

「ここが川神学園ですか！ いやーおつきいですねー」

「お主、なぜ川神学園へ？」

「この学校に見学をしに来たんです、僕の家、ずごく田舎で通信制の学校だったもので



……」

「そうか！同じ学び舎になるかもしれないぬのだな！これも何かの縁！困ったことがあれば我を尋ねよ！」

「ありがとうございます！僕、孫悟飯です！」

「我は九鬼英雄！ヒーローである！」

最初はちよつと変な人って思ったけど良い人でよかつた

九鬼英雄君か、もしこの学園に通うとしたらまた会えるかな？

ちよつとこの学校に通いたくなつたかも

「遠いところからよく来たのお」

「いえ、このような機会をありがとうございます！」

（亀ちゃんが言うには余りに強すぎるから強さを隠して学校に通わせたいと聞いておつたがそんなに強いのかのお）

「所でお主、今どれほど力を抑えて折るんじや？」

「なーに、心配するでない、強さを隠しておるのは聞いておる、ちよつとした好奇心じやよ」

「えーと、今は気をほぼゼロに抑えています、ちよつとだけ開放しますね？」

「ハッ!!!」

「!!!」  
もう良い!

(な!んじやこの出鱈目な気は……モモの奴でもこんな量無いぞい……)

「しかし、モモの奴が遊びに行つてて助かったぞい」

「モモ?」

「ワシの孫娘でな、強い者と戦いがつておるんじやが今の気を感じしてたら飛んできてただらうと思つての」

「それはちよつと困りますね……」

「お主とて武をたしなんでおるのじやろ?」

「いえ、僕は学者になりたくて……」

「そこまでの才をもって別の道をすすむか、まあお主の人生じや、頑張りなさい」

「はい!ありがとうございます!」

色々聞いてみたけど、楽しそうだ!

川神学園、決闘ってシステムはちよつと不安だけど、良い学校そうだな

ここに決めよう！

「僕、ここに通いたいです！」

「後はお主の学力しだいじゃの」

「あ、あとお願いがあるんですが……」

「初めての学校なのでテストが良くても普通のクラスがいいのですが……」

「そんなことか、問題ないぞ、特進クラス以外に入るくらい、Sは元々希望者のみのクラスだしの」

そうして孫悟飯は入学を決意することに決めるのであった。